かむかむ

とうせい歯科医院
〒399−4117 駒ヶ根市赤穂小町屋10737−1
TEL. 0265−83−0888
E-mail thousei@avis.ne.jp http://www.mcci.or.jp/www/thousei/

2012/8/17 Vol.140 編集(金田)

NYU(ニューヨーク大学)にてのインプラント治療の研修会報告(2)

(メンテナンスの重要性)

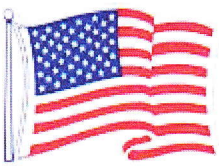
(続き) 仮に、歯周病(歯槽膿漏)が重症な患者さんが歯周病治療の後、定期検診や定期的維持管理のためのメンテナンス治療を行わなかったとすれば、当然歯周病はまた再発するか進行の一途をたどり、治療以前よりも重症化していくと考えられます。その時になってから歯科医院を訪れても以前よりも進行した歯茎(歯肉・歯槽骨)は元の状態ではなく、悪化のために前よりも長い治療期間を要する事となるでしょうし、最悪の場合は何本かの歯を抜歯する事になるかも知れません。

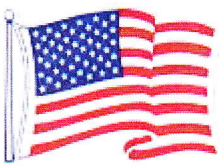
インプラント治療においても、ペリインプランタイティス(インプラントの周りの歯周炎)という病名があるように、人間の歯同様にインプラントの周りも歯周病になる事があります。 重症化していくと最悪な場合、せっかく苦労して受けた治療のインプラントを撤去する(手術して取り除く)か、噛めば痛いという事で噛めなくなったり、インプラント周囲の歯肉が腫れてきたりして切開(切って膿を出す)して何度も洗浄したり、長期間お薬を飲むことになるかも知れません。 ペリインプランタイティスを防止するには、やはり患者さん毎に、決められた期間毎の定期的な歯科医院でのメンテナンスが必要となるでしょう。

歯の無い所に対して、不安定な部分床義歯や自分の大切な歯を余計に削る事なく、自分の第二の歯として人工歯根による歯が入り、元の自分の歯のように噛めるようになり、見た目も回復されたものを長期に安定して使っていきたいことは誰もが考える事ではないでしょうか?

特に歯周病治療を受けた患者さんで禁煙治療にも取り組まれた方は、インプラント治療後は、是非禁煙を継続されたほうがよいでしょう。 何故ならば、喫煙を再度始めると歯周病が再発する確率が確実に上がる事と、インプラント治療後の歯肉の健康度が確実に悪くなる事で、ペリインプランタイティスになる確率も間違いなく上がるのです。

大変な苦労と、長期間の時間と、大金を掛けた治療が短時間でトラブルに見舞われた上、場合によっては、それを失う事になるかもしれないのです。(つづく)





歯の歴史 お歯黒（はぐろ）

担当（金田）

テレビで活躍する芸能人はもちろん、世間でも白い歯に対する意識が高い現代です。歯を白くする効果のある歯磨剤が数多く売られていたり、ホワイトニングをする方も増えています。しかし!! 100年以上前は、歯は黒い事が当たり前でした。歯を黒くする習慣を「お歯黒」と呼びますが、今回は「お歯黒」をもとに、歯の歴史を振り返ってみたいと思います。

お歯黒とは？

文字通り、歯を黒く染めることです。女性の習慣でした。（稀にお歯黒をする男性もいたようです。）その歴史は古く紀元前3世紀頃、古墳内の人骨にお歯黒の形跡が見られました。お歯黒をしたはにわもあったそうです。7世紀には、あの聖徳太子にもお歯黒の習慣があったとされています。お歯黒が広く一般的に普及したのは、江戸時代からでした。その後、江戸から明治に変わると政府の近代化政策により、お歯黒禁止令が出され、千年近く続いたこの習慣は徐々にその姿を消していくことになったのです。

歯を黒く染めた理由とは？

歯を黒くすることで相手の女性が既婚なのか未婚なのか見分けたと言われています。女性が人生の大転換期である婚約、結婚を迎えてはじめて染める風習となりました。黒は何色にも染まらない色なので貞操を意味し、既婚女性の誇り高い心の支えともなっていたそうです。

更に!! お歯黒の成分が、虫歯予防に効果的だったとされています。

お歯黒の成分は？

主成分は鉄漿水（かねみず）と呼ばれる酢酸に鉄を溶かした茶褐色・悪臭の溶液で、これに五倍子粉（ふしこ）と呼ばれるタンニンを多く含む粉を混ぜて非水溶液にします。主成分である酢酸第一鉄とタンニン酸が結合することによって黒くなります。歯を被膜することによる虫歯予防や、成分がエナメル質に浸透することで浸食に強くなったそうです。毎日～数日に一度染め直す必要があったそうです。染める作業はとても大変だった様ですよ…。